

平成29年度 大阪府立芦間高等学校 第3回 学校協議会

日時 平成30年2月9日(金) 午前2時30分～午後5時
場所 校長室

構成員 <協議会委員>
 笹山 幸子 元府立高等学校長
 藤村 幸博 P T A会長
 藤田 俊和 後援会会長
 松本 紀容子 守口市立八雲中学校 校長
 宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員
 山崎 裕也 スクール I E (学習塾) 京阪エリアマネージャー

<事務局>
 東崎 浩 教頭
 久森 雅代 事務長
 甲斐 徹 首席 兼 情報部長
 辻 真人 首席 兼 総務文化部長
 塩崎 靖子 指導教諭 兼 教務主任
 斉藤 衛 生徒指導主事
 諸木 忠治 進路指導主事
 丸山 清美 保健主事
 角山 愉紀雄 第1学年主任
 平尾 映子 第2学年主任
 岸本千都子 第3学年主任
 水嶋 育美 支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長
 萩原 英治 校長

配付資料 ○平成29年度 第2回学校協議会議事録
○平成29年度 学校経営計画及び学校評価〔達成状況記載〕
○平成30年度 学校経営計画及び学校評価
○平成29年度学校教育自己診断の集計結果
○平成29年度第2回授業アンケートの集計結果
○平成29年度第2回勉強アンケートの集計結果
○学校生活における諸注意

内 容

(1) 校長挨拶

(2) 報告・説明

[1]平成29年度学校評価(学校経営計画の達成状況)について

[2]平成29年度学校教育自己診断の集計結果等について

[3]平成29年度第2回授業アンケートの集計結果等について

[4]平成29年度第2回勉強アンケートの集計結果等について

[5]平成30年度学校経営計画について

(3) 協議

[1]平成29年度学校評価(学校経営計画の達成状況)について

(委員) 「学校教育自己診断」について、中学校でも「主体的・対話的・深い学び」につながる授業改善に取り組んでいる。重点目標に対するアンケートを行うのであれば、発問を変えた方がよい。たとえば、「あなたは自ら考えようと思いましたか」「あなたは発表する場面で積極的に発表しましたか」「友達と意見を交流することによって学びは深くなりましたか」「先生はそういう場を設定していましたか」というものに変えると、先生は、必然的にそういう場を設定する授業に変えていかなければならなくなる。また、中学校では「何のために」ということをキーワードにして、授業や学級経営の見直しを行っている。大学入試プレテストでも、解決型の問題に

変わってきているので、授業の中でもそういう場면을体験しながら行って行かなければいけない。

- (委員) 「芦間高校生の勉強に関するアンケート」がそれに近いと思う。うまく使えば、先生の気づきにもなり、生徒の学習姿勢も変わると思う。
- (委員) 「芦間高校生の勉強に関するアンケート」は個人を特定して行っているのか。
- (事務局) クラスや学年全体として行っているので個人の特定はできない。
- (委員) 改善に役立てるのであれば、途中で個人を特定して行う方が生徒も先生も改善に役立てられる。生徒も意見を言うと先生が反応してくれるというのが手ごたえになる。このまま、自分の授業でアンケートをとればいいと思う。
- (委員) 他校の取組みで、自分の授業をビデオに撮影して見直すことによって、気が付いていなかった自分の癖などが客観的に見ることができ、改善に役立てることができている。
- (委員) 選択科目がたくさんあって自分たちの学びたい気持ちがかねえられるのが、総合学科であるという思いはすごくある。取りたいものと進路が重なるような選択ができればより満足度は上がると思う。満足度の高さは、これから受験する生徒たちにも参考になっている。
- (委員) 「学校教育自己診断」について、満足度が下がっているということであるが、何に満足していないのかがわかればいいが。
- (校長) 1年生の数値が2年生になったときに上がっていれば、芦間の良さに気付いてくれたということになる。それをめざしたい。
- (委員) 担任の先生が、何に満足していないのか聞いてみればいいのではないか。
- (委員) 1年生で選択がないという点では、他校との差はないので、自分が思い描いていたのとは異なるというところもあるのではないか。
- (委員) 1年生の授業でわかりやすいということに「あてはまる」が低いので、そのあたりの不安も関係しているのかもしれない。
- (委員) 理想は先生たちと生徒・保護者の意見の数字が近い方がいいと思う。「先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」などは、先生の受け取り方と生徒の受け取り方が違ってくる。「家庭学習の時間」も生徒・保護者と先生の意見が違っている。うまく伝えないと、子どもたちは無駄な家庭学習をしていることも考えられる。
- (委員) アンケートの結果から、先生の回収率が低いのが気になる。生徒にとっては3年しかないので1年ごとに前進しなければいけない。スピード感を持ってアンケートをしているのであれば、先生たちもその主旨を理解する必要がある。
- (委員) 施設・設備について、府の予算で難しいところはある。PTAの予算の中で、計画的に使っていつてもらえたらいいと思う。本年度は和太鼓の修理を行う。後援会でもお願いしたい。
- (委員) 授業に支障をきたすのは問題なので、後援会でも協力したい。
- (委員) 学校経営推進費を校長に頑張ってもらって取ってきてもらいたい。
- (校長) 頑張ります。
- (委員) 教育相談の部分について、カウンセラーが月に1回ということでは、相談も十分にはできない。もう少し予算を付けてもらいたい。

他にも、平成29年度の学校評価を受けて、改善点についてご意見をいただいた。

[2]平成30年度学校経営計画について

- (委員) 「働き方改革」について説明があったが、他に29年度と変わって力を入れる部分はあるのか。
- (校長) 基本的には今までの流れを継続する。やるべきことは行われてきたと思っているのでそれを熟成させるということになる。一方で、手を広げすぎている部分は縮小しているところもある。従って、「経営計画」には本当に重点的に行うことだけを上げている。中でも、やはり授業力の向上は重要だと考えている。質的変換、発想の転換が求められる時代に来ているということを教員に分かってもらう。今年は、まず、授業の最初に「本時の目標」を提示することをお願いして、実行してもらった。次に、アクティブラーニングのベースになるような、生徒の思考を促すような授業を求めた。次年度は、引き続き思考を促す授業を行ったうえで、最後のまとめを意

識した授業をお願いしようと思っている。

- (事務局) 本時の目標を形から掲げようということを提案し、「本時の目標」という札を作って各教室の置いておこうと考えている。教室にあれば、他の先生も使いやすくなるのではないかと考えている。小学校の授業ではたくさん貼られている。
- (委員) どうすれば記憶に残るかという点、「聞くだけ」は2.5%、「書く」と15%、最も記憶に残るのは「自分が人に伝えて共有する」ということであると聞いている。残したいのであれば、それを使って誰かに説明したり、文章にしたりすることが定着につながる。
- (委員) 「授業アンケート」のグラフから見ると、社会科では「知識・技能が身についた」が低い。「興味・関心を持つことができた」も低い。社会で仕事をしていると、数学や英語より社会科が重要となってくる。社会科で教えることで理解が深まる部分を取り入れたら基本的な能力が向上するのではないかと思う。大学入試では重要な科目ではないかもしれないが、生きていく上では学力を身に付ける必要がある。
- (委員) 芸術の評価が高い。今年度最初の授業の陶芸の授業で「授業のデザイン」ができていると委員の方がおっしゃっていた。芸術はどのようにしているかというところから始めてもいいのではないか。また、先生方も褒めて良いところを伸ばしてあげることも大切だと思う。診断結果も、低いということは改善点が見つかるということなので改善していけばいい。

平成30年度学校経営計画について、概ね、承認をいただいた。

[3]校則について（学校生活における諸注意）

生徒指導主事から本校の生徒指導についての説明の後、協議を行った。

- (委員) 保護者から校則についての意見はあったか。
- (事務局) 指導について意見はあるが納得していただいている。校則を変えろというような意見はあまりない。登下校中のマナー等について外部からご意見はいただいている。その都度、現場へ行って指導を行っている。
- (校長) 画一的な指導ではなく生徒の状況を見て理解するまで粘り強く指導するのが芦間高校の指導。
- (委員) 生徒はどこまで許されるかというところを見ているので指導をお願いします。
- (委員) 指導はイタチごっこになるかもしれないが、指導が無くなると「いいのかな」と思うところがある。また、人によってはかまってもらってないと感じることもあるようであるので続けてお願いしたい。

本校の生徒指導についてご理解をいただいた。

(4) 校長挨拶

○平成30年度の学校運営協議会委員委嘱について